## 2012年仕事始め式のことば～「医療の標準化」と「断らない病院」～

明けましておめでとうございます。年末・年始の間、当番だった皆様、また急患などで出務された皆様、誠にご苦労様でした。短い期間でしたがリフレッシュして新しい年を迎えられたことと存じます。

昨年は「ホスピラリティー（思いやりのこころ）を高めよう」、「一歩前へ」とのスローガンで始め、「兎年」にふさわしく、いろんな形で一歩前への踏み出しがあったと思います。今年は「辰年」、更に力を大きく結集して上に向かって登って行こうと思います。

昨年から朝の外来開始時にスタッフが並んで診療開始の挨拶を始めました。小さな新たな試みですが、患者さんからは病院がずいぶん変わったと評価されています。とても大切なことです。こうした小さな試みの積み重ねが大きな力となっていきます。皆様、一人ひとりが改善のアイディアを出し実行することを、これからも是非続けてください。病院における改善活動は、すべて患者さんに直接接することから始まります。現場から発しない提案は机上の空論にしかすぎません。従って全ての部門において病院に勤務する職員はできる限り患者さんに接する時間を多く持つことが必要で、そこから生まれる問題点を一つ一つ解決していくことが重要となります。それが職員自らの自己研鑽や自己変革にもつながります。まずは自分たちが働きやすい職場、働き甲斐のある職場、ここで働いていてよかったと思える明るく思いやり溢れる職場づくりが大切です。そのことが患者満足度のアップにもなり、かかって良かったと思える病院づくりにつながります。よろしくお願いいたします。

5階の医療療養病棟では医療区分2、3の患者さんが8割を占め、医療型にふさわしく変身しました。一般病棟の平均在院日数は15～16日と随分短縮、平均在院日数にカウントされない在院日数が90日を超える入院患者は10人以下に減少し、一般病棟本来の姿に戻りました。入院も外来も一人あたりの単価が増加しています。地域連携度と地域からの信頼度のバロメーターである紹介率と逆紹介率は大きくアップし、30%を超えようとしています。これらを常勤医10人で成し遂げているのは驚異的です。皆さんの大変なご苦労がうかがわれますが、更なる飛躍を期待しています。

更なる飛躍をするためには「医療の標準化」が避けて通れません。医療の標準化に向けての取り組みは、小野田先生が、抗生剤の使用基準に始まりクリニカルパスの作成とカルテ監査へと強力に進めてくれています。病院全体での取り組みと協力が必要不可欠です。今年の最重要課題の一つと考えています。

言うまでもなく井原市民病院は、この地域の中核病院であり、地域住民は勿論、井原市医師会の先生方や近隣の病院からも中核病院としての役割を果たすことが期待されています。医療の質を絶えず高めるとともに医療の原点を大切に「断らない病院」であることが求められます。

最後に、人口 4 万 4 千人で高齢化率が 30%を超え、できる限り長く自分の家で過ごしたいと希望する人が 60%を超える中にありながら、在宅療養を支援する医療機能としては井原市医師会訪問看護ステーションしかありません。現在の井原市の保健・医療・福祉体制で最も必要とされているものは、24 時間巡回型訪問サービスだと考え、今年 4 月から開始する予定です。これにより入院患者さんの在宅復帰率を高め、在宅療養している方の病院入院率を下げ、在宅介護に携わっているご家族の負担が少しでも軽減されればと願っています。井原市医師会訪問看護ステーションと緊密かつ良好な連携を取りながら井原市の在宅医療の充実を図ろうと思います。

以上、長々と述べてきましたが、今年は「医療の標準化」と在宅医療を含め 24 時間をカバーする「断らない病院」をスローガンに頑張っていきたいと思いますのでご協力をお願いして、私からの新年の挨拶といたします。

2012 年 1 月 4 日

院長　山田信行